

ISONET

center for better living



Document published on: 2015-09-15



ISO 9001:2015

ISO 14001:2015

ISO改正特集

ISO9001:2015、ISO14001:2015 ともに、2015年9月15日に発行

～BL-QE主催 ISO規格改正移行説明会ご報告～

Information

■2015年版ISOマネジメントシステム参考書籍ご紹介

ISO規格改正特集 BL審査員インタビュー

〈ISO9001〉

要求事項を読み解き、何をすべきか考える!

品質マネジメントシステム主任審査員 高井 澈 氏

〈ISO14001〉

事業プロセスに合致した仕組みを目指せ!

環境マネジメントシステム主任審査員 野瀬 忠之 氏

BL-QE Information

■<2015年版対応>セミナー

- ・内部監査員養成セミナー(2日コース)
- ・内部監査員レベルアップセミナー(1日コース)
- ・BL-QE情報交換会

北から南から

BL-QE新規登録組織

2015年6月度～2015年8月度

Seminar Information

- ・情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS)
- 内部監査員養成研修会 2日間コース
- ・ISO規格改正移行説明会 追加開催

ISO9001:2015、 ISO14001:2015ともに、 2015年9月15日に発行

～BL-QE主催 ISO規格改正移行説明会ご報告～

2015年版のISO9001、ISO14001がともに2015年9月15日に発行されました。BL-QEでは、組織の方々にご参加いただく「ISO規格改正移行説明会」を、2015年8月7日から、北は札幌から南は鹿児島まで18回にわたり開催してまいりました。10月6日で説明会を終了させていただきましたが、第2弾として、ご参加いただけなかった皆様のために、東京会場で2015年12月4日(金)、2016年1月20日(水)の2日間、同じく大阪会場でも2016年2月2日(火)に追加開催を決定いたしました。お早めのお申込みをお待ちしています。(追加開催の詳細は裏表紙をご参照ください)

説明会の概要

18回にわたる「ISO規格改正移行説明会」では、延べ600名以上の組織の方々にご参加いただき、規格改正のポイントや、また具体的な移行手続きについてご説明してまいりました。

今回の改正には、「ISOマネジメントシステムの多様な分野への拡大により各規格間で整合していない問題」や「規格の要求事項を組織に合わせて標準化できない組織の増加」などが背景にあり、大きな改正点の1つである「附属書SL」

の制定による各ISO規格に共通テキストを導入するメリットについて、ご説明いたしました。

ISO9001、ISO14001両規格共通の改正メリットとしては、「マネジメントシステム間の整合の確保」ができることや、また「規格を理解しやすくするための改善」、「経営戦略との統合のし易さ」があることをお伝えし、改正を機に規格を見直すことにより、ISOマネジメントシステムの有効活用がより進展することをお話ししました。個別には、ISO9001と

ISO14001それぞれの改正による既存規格との差分のポイントを一つ一つ解説しました。

最後に、規格改正にどう対応されるか、悩まれるご担当の方々も多く、皆様の不安払拭、理解促進のため、ご質問にお答えするQ&Aタイムも設けています。

追加開催の説明会では、最終国際規格案(FDIS)の邦訳版を基に同様のご説明をいたします。



Q&Aの代表例

今回は、会場でいただいたご質問と会場での講師のお答えの一部をご紹介します。後ほど「Q&A集」という形にまとめてお知らせするように計画しています。

Q 2015年版の内部監査を実施するには、2015年版の内部監査員を養成しなくてはいけないと思うのですが、どうしたらよいのでしょうか？

A 内部監査は、組織のマネジメントシステムで組織自身が規定した要求事項への適合、ISOマネジメントシステム規格の要求事項への適合、マネジメントシステムが有効に実施され、維持されているか、というような組織の状況を管理層に情報を提供するために実施されます。内部監査の実施方法については、ISO19011によって指針が示されており、今までと変更はありません。

2015年版での内部監査を行うためには、2015年版のISO規格の理解が必要になってきますので、改正されたISO規格の要求事項について、何らかの方法で研究する必要があります。その方法としては、そのような解説セミナーへの参加、社内勉強会への参加、参考資料などを用いた自己学習など、いろいろな場面が想定されます。必要な力量は、新規格について、内部監査を計画して、実施して、報告を作成できるということになります。

BL-QEでは、2016年早々から2015年版内部監査員養成のレベルアップセミナーを開催しますので、ぜひご利用ください。(P5をご参照ください)

Q 内部監査は、全サイトについて実施しなくてはならないのですか？

A 今回の規格改正で、マネジメントシステムを変更した部分については、全て内部監査を実施する必要がありますが、全てのサイトでの実施を求めているわけではありません。

Q 新規格での審査を受けるためには、何ヶ月程度の運用期間が必要ですか？

A 運用期間については、何ヶ月必要かという規定はありません。新しい規格での運用後、内部監査、マネジメントレビューの実施がなされていることが条件となります。

Q 「文書」「記録」が「文書化した情報」に変わるということですが、文書と記録という用語を使い続けても問題はないでしょうか？

A 組織でどのようにするか決めていただき、「文書」「記録」という言葉をそのまま使用してかまわないと思います。今回の改正では、規格側から限定的に用語や箇条番号について縛りつけることはしていません。そのため、表現が抽象的な部分もありますが、導入にあたっては組織の実体に合わせていただければと思います。

Information

JIS規格発行についてのお知らせ

現時点での情報から、2015年版ISO9001、ISO14001のJIS規格発行について発行日や入手方法などをお知らせいたします。発行日については官報に公示されます。

■発行予定日 JIS Q9001:2015、JIS Q14001:2015ともに11月20日(金)発行予定

■入手方法 一般財団法人 日本規格協会のホームページにある「JSA Web Store」からもご購入できます。

<http://isokaitei.jsa.or.jp/survice/book.html>

※11月20日(金)の発売予定ですが、10月23日(金)から予約受付を開始しています。

■価格 JIS Q9001:2015 ¥3,600(税抜き) JIS Q14001:2015 ¥3,800(税抜き)

組織が2015年版のISOマネジメントシステムを理解し、業務に活用するためのノウハウ等を審査員に聞く「ISO規格改正 BL審査員インタビュー」。

今回は品質マネジメントシステムについて高井徹審査員から、環境マネジメントシステムについて野瀬忠之審査員から、「規格改正のポイント」および「対策」などについて伺った。

ISO 9001

要求事項を読み解き、何をすべきか考える!

高井 徹氏 プロフィール

東燃化学(株)にて30年間技術・製造・品質保証等の業務に従事。関連会社トーネックス(株)石油樹脂製造のISO 9001認証取得時に管理責任者を担当。2000年に転職後、コンサルティング、日本化成(株)にて認証取得とシステム運用の推進に従事。2008年に退社し、品質マネジメントシステム主任審査員として活動している。



▶ 改正の狙いと主な変更点を教えてください。

改正の狙いのひとつは、ビジネスと品質マネジメントシステム(QMS)とがうまく融合できるようにすることです。組織の目的の達成と品質マネジメントシステムの運用をうまくリンクさせているかが本来の目的ですので、改正された内容もその点を考慮しています。

変更ポイントは、まずトップマネジメントの直接的な関与が求められ、また組織の状況の理解として、課題や利害関係者の明確化が求められています。これは2008年版などの序文にある事項が要求事項へと変わったものだと考えればよいでしょう。あとは、事業戦略との一体化の強調、品質パフォーマンスを重視することも変更ポイントのひとつです。

ISO 9001 改正の 主なポイント

- 組織の状況に応じたQMSの適用範囲の設定
- 経営戦略との一体化(事業プロセスとの統合)
- リーダーシップの強化
- 組織の意図した成果、パフォーマンスの強調
- サービス業への配慮

▶ 審査のポイントも変わるのでは?

必要な要求事項がより明確になったので、そのあたりは審査のポイントとなります。また、リスクとは何か、機会とは

何か、それらに対する取り組みをどのように計画し、どのように実行しているのか、といったことを審査側から問えるようになるので、組織の信頼性に加えて、パフォーマンスのアップにつながる審査が可能になると考えています。

▶ 改正について組織からどのような声があがっていますか?

マニュアルをどうすべきか?という声をよく聞きます。品質マニュアルは、新入社員や中途採用の人に組織の仕組みを説明するための教育資料として使われるケースも多いようです。改正によってマニュアルはなくてもよいことになりましたが、マネジメントシステムを全社員に周知させることを考えると、その扱いは悩むところでしょう。

私は、マニュアルは残したほうが良いと考えています。社内の教育資料として今後も使っていきたいと考える組織も多いはずです。

また、管理責任者の任命が要求事項からなくなった点にも戸惑いがあるようですが、割り当てるべき責任と権限は、今までと同様にある訳ですから、今までどおりでも問題はないと思います。

▶ 環境マネジメントシステム(EMS)と比べると改正される内容が多いようですが?

QMSでは箇条の順序や表題が大きく変わるので、改正される内容が多いように感じるのでしょうか。作成している文書の中に要求事項をすべて書き込まなければならないというのではなく、審査で確認するのは要求事項どおりにできているか否かなので、EMSに比べて変更点が多いということでもないと思います。

▶ 対応策として何かアドバイスをいただけますか?

要求事項の意図するところを読み取って、何をすべきか考えてください。要求事項は、事業上の必要なプロセスに結びついています。あるプロセスのインプットが加工されてアウトプットに変わり、そのアウトプットが次のプロセスのインプットへと続きます。自社が目指す最終目標へどのようにつながっていくのかを見極めながら取り組んでいただければよいでしょう。

▶最後に組織の方へ向けて、メッセージをお願いします。

マネジメントレビューの強化を目指してください。社長は指示後の結果を待つだけでなく、フォローもすること。指示を受けた管理責任者も実行部隊へどうするのかを伝えてフォローし、その状況を社長に報告するという流れを構築することです。お互いにコミュニケーションを取り合い、ビジネスの展開に大いに役立つ仕組みにレベルアップさせてください。

ISO 14001

事業プロセスに合致した仕組みを目指せ！

野瀬 忠之氏 プロフィール

飛鳥建設(株)で作業所に20年、施工管理・安全環境部に16年、公害防止、建設副産物の適正処理、ISO環境マネジメントシステム構築に従事。以降、環境マネジメントシステム主任審査員、コンサルタントとして活動。環境カウンセラー、一級建築施工管理技士等。



▶ISO14001規格の主な変更はどのような点ですか？

2004年版と2015年版を比較して、組織の事業内容と結びつくようにすることが重要になりました。一方、要求事項の内容自体は、それほど変わったという印象はありません。若干ですが追加されたものもあるので、その部分をきっちと仕組みの中で明確にすれば、心配することはないと思います。

ISO 14001
改正の
主なポイント

- 環境保護
- 法令順守の徹底(順守義務)
- ライフサイクル思考に基づく取組み
- コミュニケーションの拡充

▶環境方針では、汚染だけではなく内容が拡大しているようですが？

環境についての考え方として、組織が環境に影響を与えるだけでなく、組織に影響を与える可能性がある環境状態も含められました。

また、トップマネジメントのコミットメントには、汚染の予防だけではなく、その他の固有なコミットメントとして、環境保護についてのコミットメントも加えられました。

リーダーシップの要求事項で、トップマネジメントが環境マネジメントシステムの事業活動への統合を進めることになりました。これは非常にいいことで、組織で働いている方々が、なんのためにこれをやるのか、疑問を持たないような明確な目標づくりが大切です。ほんとうに達成できる目標なのか、社員に周知していない例も少なくありませんが、このあたりは審査員側がもっと突っ込んで審査しなければいけない部分でもあります。

▶本業と結びついた環境マネジメントシステム(EMS)を上手につくることが重要ですね？

マネジメントシステムは、適用される範囲、組織の規模、事業活動・製品・サービスなど、多くの要因を加味し、組織のマネジメントと整合するよう、共通する帳票などを活用し構築することが大切だと思います。

▶移行審査を受審する組織に向けて、アドバイスをいただけますか？

私は建設業の審査を担当することが多いのですが、この業界は廃棄物の多さに加えて、外部からの苦情に対して非常に大きな課題を負っています。

工事後に問題が出現することのないよう、法の順守は当然のことですが、騒音や振動が出る作業や廃棄物などに対しては事前に調査し予測しておき、環境側面の中で抽出・特定して、最終的に決定することが重要なのです。

実はこのあたりの内容は、2004年版から変わっていません。

▶改正に対して組織側から何か声があがっていますか？

改正にともなう移行期間は3年です。新しい規格に則った内部監査が行える監査員をそろえる必要はありますが、組織では3年の間にじっくり取り組めばいいと考えているところが多いようです。

ただし、マニュアルはどのようにすべきか、心配している組織は少なくありません。環境マニュアルを書き換えることもできますが、もし事業マニュアルがあるのなら、そこに落とし込んでいくのがいいと思います。

▶最後に、組織の方へ向けてメッセージをお願いします。

マネジメントシステムは、従来の仕組みに変更になった内容をプラスして運用すればいいのです。規格の要求事項はあまり変わっていないので、新規の箇所について少し視野を広げて仕組みの中で運用していけば、それほど難しい修正にはならないと思います。事業プロセスに合致した仕組みにすることも改正の狙いのひとつですので、それに向けて前進する大きなチャンスと捉えてください。

ISO9001:2015/ISO14001:2015 規格改正セミナー開催

規格改正への対応を支援するために、BL-QEでは内部監査員養成セミナー、およびBL-QE情報交換会を開催いたします。皆様のご参加をお待ちしています。

JIS Q9001:2015 (ISO9001:2015) 対応 **〈定員20名〉**
最小催行人員10名

品質マネジメントシステム 内部監査員養成セミナー (2日コース)

- 開催日時
2016年2月17日(水)～18日(木) 9:00～17:00
- 開催場所
一般財団法人ベターリビング 7階 会議室
- 参加費
弊センター登録組織 30,000円／一般 40,000円(税別)
(テキスト代、昼食代、修了証代を含む)

ISO9001:2015年版に対応した2日コースの内部監査員養成です。組織のマネジメントシステムのJIS Q9001:2015との適合状況を確認することができるように、JIS Q9001:2015の解説を実務的な視点で行います。また、内部監査メンバーとしてチェックシートを作成し、インタビューを行い、不適合を指摘し、是正処置の確認ができるよう、演習、ロールプレイを交えた実践的な内部監査員養成となっています。

JIS Q9001:2015 (ISO9001:2015) 対応 **〈定員20名〉**
最小催行人員10名

品質マネジメントシステム内部監査員 レベルアップセミナー (1日コース)

- 開催日時
2016年2月9日(火) 9:00～17:00
- 開催場所
一般財団法人ベターリビング 7階 会議室
- 開催日時
2016年3月17日(木) 9:30～17:00
- 開催場所
大阪ドーンセンター
- 参加費
弊センター登録組織 12,000円／一般 16,000円(税別)
(テキスト代、昼食代、修了証代を含む)

内部監査員資格をお持ちで、実施経験がある方を対象とした、2015年版対応についてのレベルアップセミナーです。組織の品質マネジメントシステムのJIS Q9001:2015への適合状況を確認するための規格要求事項を理解するための研修です。

ISO品質/環境マネジメントシステム (2015年版対応)

〈定員30名〉

BL-QE情報交換会 (無料) 「規格改正への対応、移行審査への対応について」

- 開催日時
2016年2月4日(木) 13:30～16:30
- 開催場所
一般財団法人ベターリビング 7階 会議室

無料

- 開催日時
2016年2月25日(木) 13:30～16:30
- 開催場所
大阪ドーンセンター

しばらく開催をお休みしておりました「BL-QE情報交換会」を開催いたします。弊センターからの移行審査の実際についてのご紹介の後、お集まりいただいた登録組織の皆様に、対応状況や対応の問題点などについてお話しいただき、自由な形で情報交換させていただきます。お待ちしております。

参加お申込
方法

一般財団法人ベターリビングのホームページ内の「ISOセミナー」から「参加申込書」をダウンロードしていただき、必要事項を記入し、下記FAV宛てご送付ください。

FAX:03-5211-0594 ※なお、先着順にて締め切らせていただきますので、お早めのお申込みをお待ちしています。

北から 南から

BL-QE
新規登録
組織

2015年6月度

- ▶ ISO 9001:0件 ▶ ISO 14001:0件
- ▶ ISO/IEC 27001:0件 ▶ OHSAS 18001:0件

2015年7月度

- ▶ ISO 9001:1件 ▶ ISO 14001:1件
- ▶ ISO/IEC 27001:0件 ▶ OHSAS 18001:0件

2014年8月度

- ▶ ISO 9001:2件 ▶ ISO 14001:1件
- ▶ ISO/IEC 27001:0件 ▶ OHSAS 18001:0件

詳しくは、ベターリビングホームページをご覧ください。

▶ <http://www.cbl.or.jp/>

2015年
7
月
度

▶ ISO 9001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
Q1546	株式会社 九州ソエジマ	福岡県糟屋郡	一般建築物、鋼橋等の塗装工事及び建築物のシーリング、防水工事

▶ ISO 14001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
E431	株式会社 九州ソエジマ	福岡県糟屋郡	一般建築物、鋼橋等の塗装工事及び建築物のシーリング、防水工事

2015年
8
月
度

▶ ISO 9001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
Q1547	株式会社 日誠cfc	埼玉県越谷市	塗床工事
Q1548	松本金属 株式会社	兵庫県西宮市	1) 以下の金属プレス加工製品及びアルミ加工製品の設計・開発及び製造 ・テレビ台 ・住宅用の面格子 2) 以下の金属プレス加工製品、アルミ加工製品及びアルミダイキャスト製品の製造 ・薄型テレビ用のシャーシ ・光天井フレーム及び金物 ・住宅設備及び建設用の部品(軒天用ランナー、見切り部材、配管用化粧ダクト及びアルミダイキャスト床材) ・精米機建屋ユニット

▶ ISO 14001 登録組織

登録番号	企業名	所在地	登録内容
E432	松本金属 株式会社	兵庫県西宮市	1) 以下の金属プレス加工製品及びアルミ加工製品の設計・開発及び製造 ・テレビ台 ・住宅用の面格子 2) 以下の金属プレス加工製品、アルミ加工製品及びアルミダイキャスト製品の製造 ・薄型テレビ用のシャーシ ・光天井フレーム及び金物 ・住宅設備及び建設用の部品(軒天用ランナー、見切り部材、配管用化粧ダクト及びアルミダイキャスト床材) ・精米機建屋ユニット

BL-QE 主催 ISO/IEC27001:2013 (2013年10月新規格発行!)

情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS) 内部監査員養成研修会

充実の
2日間コース!

本研修会は、2日間のコースで取り組む実践的な演習を通じて、規格・管理策の理解、内部監査の計画から報告に至るまでの、情報セキュリティマネジメントシステムの監査に関連する一連のプロセスを学習することができ、改正された新しい情報セキュリティマネジメントシステムを理解する上でも有効な研修会となっています。

説明会の概要

- 講師: BL-QE所属のISMS主任審査員
- 参加費: 弊センター登録組織 **21,600円**/人(税込)
一般 35,640円/人(税込)
(テキスト代、昼食代を含みます)
- 開催日時: **2015年12月7日(月)・8日(火)**
9:30~17:30
- 開催場所: 一般財団法人ベターリビング 7階 会議室
東京都千代田区富士見2-7-2
ステージビルディング 7階
- 参加特典: 新版JIS規格<JISQ27001:2014>を参加者全員に贈呈

参加申込み、お問い合わせは、03-5211-0603 担当:長山、半田まで

BL-QE 主催

ISO規格改正移行説明会 追加開催!

無料

ISO9001、ISO14001のFDIS(最終国際規格案)を基に、現在使用している規格要求事項との差分を解説し、移行手続きについてもご説明いたします。

BL-QEホームページのISOセミナー内の申込書をダウンロードして、必要事項をご記入の上ファックスでお送りください。参加証をお送りいたします。

説明会の概要

- 日時: **2015年12月4日(金)** 13:00~17:00
2016年1月20日(水) 13:00~17:00
- 会場: 一般財団法人ベターリビング 7階 会議室
東京都千代田区富士見2-7-2
ステージビルディング 7階
- 日時: **2016年2月2日(火)** 13:30~17:00
- 会場: 大阪ドーンセンター
大阪市中央区大手前1-3-49

参加申込み、お問い合わせは、03-5211-0765 担当:山岸、山賀、吉田まで

本誌は、弊センター登録組織から受領した「品質/環境/情報セキュリティ/労働安全衛生マネジメントシステム審査登録申請書」に記載されている「申請者」宛に、発行の都度送付しております。送付業務は、効率的に一日も早くお届けできるように、弊センターから「宛名ラベル」を提供し発送を委託しております。弊センターは、発送委託業者との間における請書において、再委託業務も含めた機密保持義務を課す項目を定め管理を徹底するように努めております。今後ともこのような対応をいたします。

ISO NET (Center for Better Living) Vol.105 2015年10月27日発行
発行 一般財団法人 ベターリビング システム審査登録センター
代表者: センター長 東ヶ崎 清彦
担当: 業務推進部 普及課
TEL: 03-5211-0603 FAX: 03-5211-0594
ホームページ: <http://www.cbl.or.jp/>

